

金水晶酒造 株式会社

おいしさを 福島の誇りを伝える

当社は創業129年、県オリジナル酒造好適米「夢の香」、「福乃香」を中心とした地元産の原料米を使用し、地元出身の杜氏や蔵人と共に、地元の気候や風土に合わせた酒造りをしていく福島市唯一の造り酒屋です。

このコーナーでは、福島市に立地しているものづくり企業の知られざる魅力にスポットをあて、紹介します。

今年の3月には荒井に新社屋を完成させ、荒川の水と地元の水米を使用した日本酒や、桃果汁を使用したオール福島リキュール「ちびもも」を開発し、地域への貢献にも力を入れています。

今春からは多様な酒を醸造する5つの蔵元が集まるあづま山麓エリアの1醸造所として、インバウンドも見据えた誘客に取り組んでいます。



▲ 3月16日から販売を開始した新商品

【会社概要】

所在地：福島市荒井字上鷲99

(金水晶 四季の蔵)

代表者：代表取締役 齋藤湧生さいとうわくお

設立：明治28年10月

事業内容：製造・販売

連絡先：☎572-3077

■問／企業振興課 ☎525-3723

クローズアップ

♪ 四季の里入口に新社屋「金水晶 四季の蔵」オープン！

新社屋を建設した荒井地区は、本市が誇る清流「荒川」を有しています。荒川の水質は、鉄分の含有量が少なく、アルカリ性が強いことから、醸造用水に適しています。

3年前からは「荒川さくらづつみ酒造り協議会」と連携し、地元で収穫された酒米を原材料に、荒川の水で仕込んだ、「純米吟醸あらかわ」を醸造しています。



▲金水晶 四季の蔵



▲金水晶酒造株式のホームページはこちら

We Love♥
ふくしま!

第68回 「平安時代の福島を想う」



今春、福島稲荷神社の節分祭に、福島市出身力士、大波三兄弟(若元春、若隆景、若隆元)と丹治兄弟(丹治、大賀)が参加。恰幅のいい力士が豆まく、神姿は神社に実に映え、邪気を追い払い、福を呼び込む効果あらたかと感じます。集まった約600人が、福豆をつかみ取るうたと大歓声。来年もぜひ参加してほしいものです。

福島稲荷神社をこの地に祀ったのは、平安時代の陰陽師安倍晴明。NHK大河ドラマ「光る君へ」で、ユースケ・サンタマリア扮する怪しげな人物です(劇中のイメージですが)。

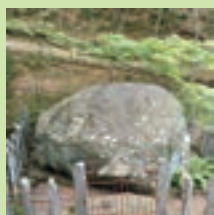
ただ、朝廷に重用され、大河ドラマにも登場する歴史的人物が、将来有望な地として福島を選び神社を置いたことに、誇りと親近感を感じます。創建時のイメージも膨らんでいきます。

また、小倉百人一首の歌枕、文知摺観音も平安時代につながるもの。源融と虎女との悲恋は、「陸奥のしのぶもぢずり誰ゆゑに 乱れそめにし我ならなくに」の歌に詠まれ、今に伝わります。百日参りを終えた虎女が、もちずり石に源融の面影を見る様子、源融が都で恋しさに心乱れる様子が目に浮かびます。平安末期には、飯坂・大鳥城

を拠点とする佐藤一族が活躍します。特に佐藤継信・忠信兄弟の忠義ぶりは、「義経千本桜」の重要な題材として、歌舞伎などで今も演じられ、人気を博しています。

自らの国、地域の原点を確認することは、未来に向けてしっかりとした土台をつくることにつながります。M8・3以上と推定される貞観地震(869年)が注目されるようになったのは、大震災後のこと。惜しまれてなりません。改めて、自国、地元の歴史に目を向けていきたいものです。

最後に、ハイアン貴族おじやる丸と福島人を虜にするもの、それはプリン。やんごとなき甘さと香りが心とろかせ、福島市は、総務省家計調査で全国一となりました。福島には、地元が誇る卵、牛乳、くだものを使ったプレミアムなプリンもあるからでしょうか。平安の世は、プリンを食べながらゆったり気分、学びましょう。



▲もちずり石(別名:鏡石)

福島市長 木幡浩